

みなかみの森と”ととのう” 間伐材を熱源としたサウナ事業

【概要】

みなかみの森を活かすことをテーマにした貸切サウナ施設”MOOSKA DE STUBEN”をオープンしました。

施設のサウナ、ラウンジの薪ストーブ、焚き火は、みなかみの間伐材を使用し、森林の保全、活用に貢献します。

【本事業の社会的意義】

里山の生態系、麓の生活環境を守る”間伐”で採れた材を有効活用し、間伐及び森林保全、森林活用に貢献しています。

本町の森林整備基本方針の中に、「”水と森林”を育み、それを まもる・いかす・ひろめる力 を携えた人を育てていく」とありますが、わたしたちはこの事業で、“いかす” ”ひろめる” の役割を担います。

【間伐材の使用による里山の生態系保全サイクル】

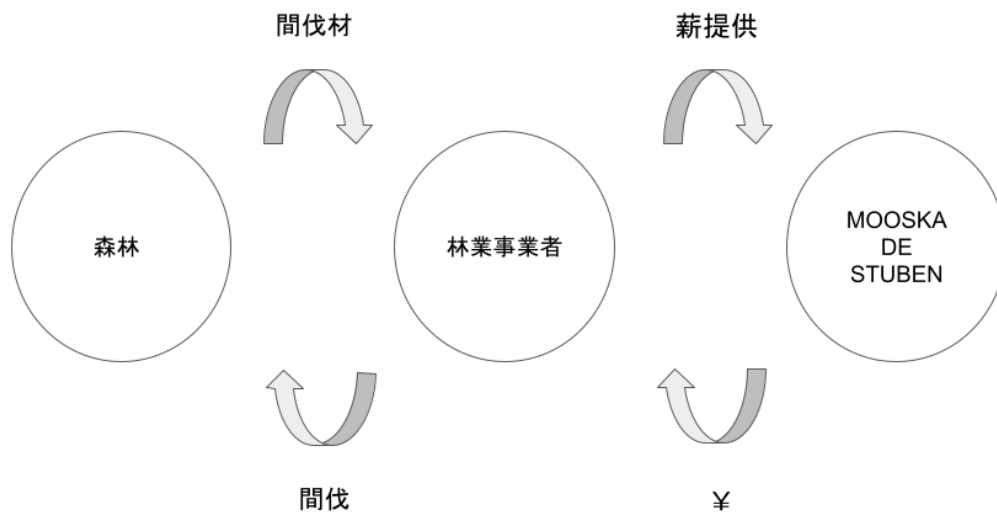
林業事業者の担い手不足により手入れの行き渡らなくなった森林は、ナラ枯れや生物害の影響を受けて、多面的機能が低下していきます。

適切な伐採を行うことで、木々の1本1本が逞しく成長し、陰に隠れていた下層の植物たちにも陽が当たり、育っていきます。よって、田畑にまで被害をもたらしていた動物たちは、光のある森林へ戻り、豊かな里山の生態系が形成されます。

【”いかす”取り組み】

薪としては、ナラ材が人気ですが、わたしたちの仕入れている薪は、広葉樹のミックス(ミズナラ、コナラ、イタヤカエデ、ウリハダカエデ、ホウノキ、サクラ、シラカバなど)です。オープンした7/19から現在までに、およそ30立米の薪を使用しました。

材は種類で区別せず仕入れることで、満遍なく有効活用していきます。



わたしたちは、本事業で薪を使用することにより、地域の間伐材需要を生み出し、林業事業者を支えます。

当施設が稼働すればするだけ森が明るくなっていきます。

【”ひろめる”取り組み】

昨年11月には、森林塾青水代表北山氏と連携をとり、

”間伐体験とクロモジ採取・蒸留体験イベント”を開催しました。

参加者・スタッフがガイドとともに、森の散策、植物採取から蒸留、間伐体験を行い、里山保全について理解を深めました。

また、みなかみの森林で採れたボタニカルから成るエッセンシャルオイル製造工程で出た、本来捨てるはずのアロマを含んだ水が、サウナのロウリュ用アロマウォーターとして使えることがわかりました。

現在では、地域のアロマ蒸留事業者よりロウリュ用アロマウォーターを仕入れて販売をし、みなかみの自然を五感で満喫していただいております。